

項目	指摘事項	指摘事項を踏まえた対応	骨子案掲載箇所
再生計画全般	・ 事業費が増加した理由としては、建設費の高騰だけでなく、総合的な観点で理由を考えるべきだと思う。（倉斗委員） ・ 地区別人口減少の推移や全市利用施設、地域利用施設を踏まえた中長期的な視点に基づく将来のまちづくりの展望を記載するなど、施設の統廃合の必要性について触れるべきだと思う。（磯野副会長）	・ 事業費が増加した要因については引き続き検証を行い、必要に応じて再生計画に反映します。 ・ 全市利用施設、地域利用施設を踏まえた中長期的な視点に基づく将来のまちづくりの展望について明記します。 ・ なお、地区別人口の推移による展望については、現時点で推計結果が示されていないことから、結果が示されたのちに検討します。	第 4 章 4. 1（予定）
総量圧縮について	・ 次期計画では、施設の再編は検討しないのか。（倉斗委員） ・ 総量圧縮の必要性が大きくなると思うが、その認識はあるか。（倉斗委員） ・ 複合化・多機能化の推進と保有総量の圧縮は今まで以上に推進すべき。（西尾委員）	・ 総合教育センターを中心とした複合施設の建設について既に基本方針が策定されており、当該施設について次期計画に位置付けることを検討しています。 ・ 総量圧縮の検討については、現行計画では「まちの姿が見えた時」などの抽象的な表現となっていますが、次期計画では「施設が目標耐用年数を迎える一定期間前の段階で、当該施設の今後の方向性を検討する」ことをルール化することを検討しています。 ・ なお、施設の方向性を検討する際には、将来のまちづくりの展望などを踏まえた中長期的な視点を取り入れることとします。	第 4 章 4. 1（予定）

項目	指摘事項	指摘事項を踏まえた対応	骨子案掲載箇所
コンクリート圧縮強度及び目標耐用年数の見直しについて	・サービスの提供と継続性について議論せずにコンクリート圧縮強度の基準を見直すのは話が飛躍していると考える。(廣田会長) ・サービスの継続、事業費圧縮をメインに他の可能性を探す議論が必要だと考える。(廣田会長) ・文科省の手引きでは、概ね建築後 45 年で長寿命化改修を実施すべきとしている様だが、建築後 45 年以上 の施設にも同様に考えてよいのか。(倉斗委員) ・事業費を抑制するために基準を緩和するように見えてしまう。(倉斗委員) ・「施設の状況によって個別に判断する」とのことだが、判断基準が曖昧では市民が不安に感じると思う。(倉斗委員)	・事業費の抑制だけでなく、総量圧縮を実現するための手続きに時間を要する中でも老朽化対策の手を止めないこと、また、今後ますます求められていく環境負荷への配慮が必要であることから「使える施設をより長く使う」という考えに立ち、日本建築学会が発行している「建築工事標準仕様書」や「耐久計画の考え方」などにおける各種基準や、文部科学省の手引き及び他市の個別施設計画を参考に、第 2 期計画期間に実施した長寿命化改修の実績を踏まえて基準の見直しを行っていることを明記します。	第 4 章 4. 1 (予定)

項目	指摘事項	指摘事項を踏まえた対応	骨子案掲載箇所
目的・目標・基本方針について	・基本方針「長寿命化と質的向上の推進」については、適正な質を担保するという様な表記に変えるべきだと考える。(西尾委員) ・基本方針「複合化・多機能化の推進と保有総量の圧縮」については、今まで以上に推進することが必要である旨を記載するべきだと考える。(西尾委員)	・第２期計画期間の実績を踏まえて積算した第３期計画期間以降の事業費の見込み額と過去の決算を比較し、事業費及び財源ベースでの実現可能性について検証しました。 ・また、人口推計の今後の見込みから、生産年齢人口の減少及び老年人口の増加によって、現在よりも財源不足が深刻化することが見込まれます。 ・上記の内容を踏まえ、公共サービスとこれを提供する施設のあり方を再検討したうえでの総量圧縮の必要性について基本方針に明記します。 ・現在ある公共建築物を適正に管理していくということだけでなく、時代の変化に対応した公共サービスを継続的に提供するための適正な公共建築物となるように管理していくことを目標及び基本方針に明記します。	第２章 2. 6 (2) 2. 7